

LOGHOUSE MAGAZINE SINCE 1985

夢の丸太小屋 に暮らす

あなたのログハウスづくりを
応援する雑誌
隔月刊

July
Vol. 7 No. 6
2002
7 月号
1080円



超実用的特集

ログハウス設計

設計のプロが疑問をすべて解決

設計なんでも相談室

特集●自分の家は自分でつくる

ハンドメイド・ログハウス・ガイド

手づくり向きキットプラン35



1階のメインスペースとなっている美容院。広い店内は全面を木に包まれた気持ちのいい空間に仕上がっている。壁の横に取り付けられた収納はビルダーの手づくり



カウンターにはタガラスファーの一枚板を使用。木のいちばんいいところをぎいたくに使っている



レトロな雰囲気を感じ出すがいし配線を壁にはわせた。「配線をわざと見せたかったんです。まねなやり方なので電気屋さんに断られるかと思いましたが、ふたつ返事でやってくれました」とか



火打ち梁の入った美容院の天井は丸太で覆われている。照明には蛍光灯を使っていない。「染髪で微妙な色合いを調整するために、なるべく自然光に近いものを選んでいきます」と権司さん



お客さん専用のトイレ。狭くながらも空間だが、洗面所と色体させてスペースにゆとりを確保

くのがうまくなりましたよ」と権司さん。家相を見てもらったこともあり、「トイレの位置が良くない」といわれ、描き直したことも。壁産の未完成したログハウスは、外観が変化に富んでいて見た目に変化を楽しめるデザインに仕上げられている。迫力に押され、どうしても丸太ばかりに目が行きがちだが、デッキの端や破風の形など細部に施されたビルダーの遊び心も見逃せない。周囲は交通の便があまり良くないことから、広々とした駐車場を敷地内に確保。美容院にはできるだけ多く大きな窓を取り付けるようにした。「採光性もいいし、なによりもお店なので外から室内が見えるようにしたほうがよかったんです」と奥様の朱津子さん。ただ、西日がきつく、それを和らげるために権司さんみずから建物の西側にぶどう棚をつくった。「これをきっかけに日曜大工にはまっちゃいましたよ」とうれしそうだ。外観は外壁に白、屋根に青を取り入れて、青い空に浮かぶ白い雲をイメージしていたが、理想の色が全く別の色にした。

メインの美容院は1階に確保した。お客さんの目につきやすい鏡台のカウンターには、厚さ50mmはある一枚板を採用。「木のいちばんいいところを使いました。マグロでいえば大トロの部分ですよ」と夢木香(株)の野島さん。室内にはビルダーの手づくりによるつくり

優秀賞 | ポスト&ビーム営業部門

美容院 cut house basic one

“ヘアークラブ ベーシックワン”

応募=夢木香(株)



ポスト&ビーム営業部門の優秀賞を受賞した住宅兼美容院は、サイディングと迫力ある丸太で構成されたログハウスだ。オーナーの吉田さんご夫婦は、東京での美容師生活を経て地元に移住してきた。その後、しばらくは名古屋でマンション暮らしをしながら不動産業をしていたが、やがて家を建てたいと思うようになったそうだ。「どうせ建てるなら美容院を兼ねた住宅にして、もう一度ハサミを握りたかったんです」と話すのはご主人の禮司さん。最初は、鉄筋コンクリートの打ちっばなしの家に興味があったという。「実際に見学に行ったのですが、室内があまりにも寒くてすぐに気に入らなくなりました」と禮司さん。



美容院を経営するご主人の吉田禮司さんと奥様の朱津子さん。禮司さんは、東京で美容師の務を最成功を収めた実力派。新天地の美容院でも超多忙な毎日だ

次に吉田さんが注目したのは輸入住宅だった。そこから、ログハウスという選択肢が生まれてきたのだ。当然のことながら、コンクリートよりも温かみを感じることができ、住宅としての利用も可能だということを知り、ますます興味



味がわいたようだ。ログハウスの雑誌を購読したり、メーカーに問い合わせして物件を見せてもらったりして、ログハウスへの思いを次第に募らせていった。

だが、建築予定地が農地だったために、土地の購入や建築の申請におおよそ1年近くかかってしま



写真上、お店の看板であるポスト&ビーム。広々とした駐車場に囲っているため、日当たりが良かった。右側にあるドアが店舗用の玄関。写真左手前から奥に、吉田さんのご家族専用の玄関は道路に面した部分に設けている。2階と3階を昇降できるはしこは、リビングと子供部屋に設置。2階のプライベート空間にあるトイレにはなぜかドアが2カ所ある。「手前に子供部屋、奥のドアに親の寝室につながる廊下があるんです」と朱津子さん。1階の美容院の奥にはおぼあ様の部屋がある。ゆったりめに確保された開口部のスペースや引き込み戸、段差のない床でバリアフリーを実現